國學院大學学術情報リポジトリ

Book Review : MATSUO Ashie (ed.), Gunki Monogatari Lectures, Volume 3, The Taiheiki : Will Peace Come to the World

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2023-02-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Nonaka, Tessho
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000559

紹　介

松尾葦江編（軍記物語講座　第三巻）『平和の世は来るか　太平記』

野中哲照

軍記物語研究を総括する叢書（汲古書院、軍記文学研究叢書）が出されてから、約二十年の時を経た。それ以降、文学研究、とくに古典研究をとりまく状況は大きく変化した。本講座（全四巻）はその状況に鑑みて企画されたもので、時機を得たものといえる。以下、紙幅の関係により各論の副題を省略しつつ、本書（本講座第三巻）の全体像を紹介する。

『太平記』の諸本研究に関わるものとして、長坂成行「『太平記』諸本研究の軌跡と課題」、和田琢磨「『太平記』と武家」が問題点を鋭く指摘しており、諸本研究の基本資料として李章姫「『太平記』西源院本・天正本・流布本記事対照表」も有意義である。

『太平記』の文体や語法に向き合う論として、北村昌幸「『太平記』の表現」、吉田永弘「言語資料としての『太平記』」があり、『太平記』の後世への影響については、黒石陽子「近世演劇と『太平記』」、井上泰至「忠義の行方」が、それぞれ興味深い指摘を行っている。

本書において重厚な存在感を示しているのが、『太平記』の文化的背景を明らかにした六編の論稿である。小秋元段「『太平記』における禅的要素、序説」、森田貴之「『太平記』の禅学、宋学」は禅との関係を、君嶋亜紀「南朝歌壇と『太平記』」、伊藤伸江「『太平記』の周辺」は和歌や連歌との関係を、小助川元太「類書・注釈書と『太平記』の関係」、山田尚子「『太平記』と兵法書は類書・注釈書との関係を、それぞれ究明している。現在の『太平記』研究の主流が文化的背景を明らかにする方向に向かっていることを示している。

『太平記』の読み方に新たな示唆を与えてくれるのが、今井正之助「『理尽鈔』『難太平記』から見た「青野原合戦」、呉座勇一「南北朝内乱と『太平記』史観」である。

小秋元段による「まえがき」は、『太平記』研究の現状と課題をじつによく整理しているのだが、その中に、大森北義の『太平記』構想論のメモが含まれていて、今後の『太平記』研究の指針としての重要な意義を持つ。

（A5判、二七八頁、花鳥社、二〇一九年一〇月発行、定価七〇〇〇円＋税）